

令和 4 年 5 月 27 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01031

研究課題名(和文) 中近世ヨーロッパにおける司牧活動に関する諸修道会の比較研究

研究課題名(英文) A comparative study of the religious orders on pastoral care in medieval and early modern Europe

研究代表者

大貫 俊夫 (Ohnuki, Toshio)

東京都立大学・人文科学研究科・准教授

研究者番号：30708095

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の成果として、2019年3月に研究代表者がドイツ語の研究書(単著)Orval und Himmerod. Die Zisterzienser in der mittelalterlichen Gesellschaft (bis um 1350)を出版した。さらに国際共同研究を推進し、2019年3月に国際シンポジウムを開催し、それを元に英語論文集"Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)"を取りまとめ2022年夏に刊行予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は、宣教、説教、救貧なども含む諸活動を「広義の司牧」と定義し、中近世の諸修道会(シトー会、托鉢修道会、イエズス会)がそこにもたらした革新的要素と、信仰の内面化や社会の規律化、信徒共同体の形成・発展に果たした役割とを比較史的アプローチで解明する共同研究である。研究期間内に実施した修道会の比較研究により、司牧に関して修道会同士の影響関係や同一修道会における通時的変容を明らかにし、また国際共同研究の中で日本中世の専門家と提携したことで、日本中世史の知見を英語で海外に発信することができた。

研究成果の概要(英文)：As a result of this project, the principal investigator published a German-language monograph "Orval und Himmerod. Die Zisterzienser in der mittelalterlichen Gesellschaft (bis um 1350)". Furthermore, the project promoted international joint research, hold an international symposium in March 2019, and edited an English-language proceeding "Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)", which will be published in the summer of 2022.

研究分野：西洋中世史

キーワード：西洋中世史 修道制 シトー会 托鉢修道会 イエズス会 司牧 教会史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

司牧 (pastoral care) は、キリスト教世界において聖職者が、その監督下にある人々の宗教生活を支える活動のことである。具体的には、洗礼や結婚などの秘跡、ミサを含む典礼、説教、聴罪、助言、埋葬などである。社会全体が宗教にどっぷり浸かっていたとすら言える中世から近世のヨーロッパにおいて、司牧は社会的に重要な意味を持っていた。俗人に対する司牧を徹底するため、教会は小教区を整備し、第4ラテラノ公会議(1215年)では、全信徒に少なくとも年一回は司祭への罪の告白を義務づけ、信仰の内面化を促進した。

本研究は、こうした司牧の歴史を修道制との関係で考察する。修道制 (monasticism) とは、多くの場合、厳格な自己規律を基本とした共同生活を送ることで神により近い生活を送る制度である。修道制には、どの戒律にしたがってどのような生活を行うか、多様な形態がある。隠修士のように、孤独に神に仕え司牧に距離をおく形式がある一方で、各時代の修道士たちは、自らの実践を通してキリスト教徒の模範を示しながら、礼拝、説教、救貧活動など多岐にわたる活動によって俗人信徒を直接・間接的に教化しようとした。托鉢修道会が修道院の外部に向けて執筆・説教活動を精力的に行い、イエズス会が時に暴力を否定せずにヨーロッパ域外で改宗活動を行い新しい信徒共同体を形成したのは、修道士が人々の信仰の内面化と規律化に貢献していたことの証左である。いずれも教区信徒に対するケア、管理、統制という意味での「狭義の司牧」では説明がつかない。司牧と様々な修道生活の間には複雑な関係が存在しており、「司牧」を歴史学の分析概念として新たに問い直す必要がある。

以上の学術的背景から、本研究は、執筆・説教活動、強制改宗、教育、救貧なども含む諸活動を暫定的に「広義の司牧」と定義した。その上で、中世盛期から近世にかけて、修道士たちが「広義の司牧」にもたらした革新的要素はどのようなもので、そこにどのような社会的背景があったのか。そして、それにより修道制は信仰の内面化と社会の規律化、信徒共同体の形成・発展にとってどのような歴史的意義を有していたのか。本研究は、比較史的手法を導入してこうした問いに取り組んだ。

2. 研究の目的

本研究では、以上の「問い」に具体的な解答を与えるために次の諸点を研究目的とした。研究対象として、中近世ヨーロッパの修道制を代表するシトー会(11世紀末成立)、托鉢修道会(13世紀前半成立)、イエズス会(16世紀前半成立)をとり上げた。

修道会の司牧に対する態度とその変容

世俗からの「逃避」と禁欲による自己の救済の追求が修道制の本質であるならば、修道制と司牧活動は本来アンビヴァレントな関係にある。しかし、同じ修道制に位置付けられながら諸修道会の司牧への態度は大きく異なり、時代によって揺れ動く。そこで、各修道会が作成した規範史料を参照し、上述した「広義の司牧」に対する態度を通時的に明らかにする。

テキストの作成・伝播・活用

修道制が司牧にもたらした革新的要素のうち、特に注目に値するのがテキストを通じた戦略的な司牧である。修道会は規範テキストや説教テキストを作成し、画一的・普遍的な規範意識をもたらした。托鉢修道会がメディアとして説教の形式・テキストの彫琢に尽力したことはその最重要事例である。こうした動向を受けて、諸修道会の司牧活動において、テキストの作成・伝播・活用がどのような役割を果たしたのかを考察する。

司牧をめぐる緊張関係とその社会的背景の考察

これまでの研究から、修道制は司牧をめくり修道院の内外（例えば修道会内、修道院と世俗司祭の間、修道院と信徒共同体の間など）で頻繁に緊張関係に直面していたことが判明している。この緊張関係を克服する中で、修道制は司牧にまつわる革新的要素を生み出し得たとも考えられる。そこで、修道会ごとにこのような緊張関係の所在をマッピングし、その特性を明らかにする。

～ を総合した新しい修道制史叙述の試み

近年、中世の諸修道会を比較する研究が現れてその意義が注目されつつある。本研究はこの最新の動向を大幅に進展させ、中近世を代表する三修道会について共通の指標を設けて分析し、司牧をめぐる事象を比較した上で、修道会同士の影響関係や同一修道会における通時的変容を明らかにする。これにより各修道会を修道制の系譜に再置し、修道制に関する新しい「通史」の叙述を成し遂げる。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、本研究は3人による研究チームを作って遂行した。

研究代表者：大貫俊夫（シトー会を中心に中世盛期に成立した観想修道会）

研究分担者：赤江雄一（ドミニコ会を中心に中世後期に成立した托鉢修道会）

研究分担者：武田和久（イエズス会を中心に近世に成立した諸修道会）

以上の体制に加えて、これまで研究代表者・分担者が在外研究、共同シンポジウムなどを通じて研究協力体制を築いてきた以下の海外研究者の協力を得る。

Gert Melville (Dresden; 修道会全般) Jörg Sonntag (Dresden; 托鉢修道会) Emilia Jamrozik (Leeds; シトー会) Guillermo Wilde (Buenos Aires; イエズス会の布教活動)

4. 研究成果

(1) ドイツ語研究書（単著）の刊行

本プロジェクトの最初の成果として、2019年3月に研究代表者がドイツ語の研究書（単著）Orval und Himmerod. Die Zisterzienser in der mittelalterlichen Gesellschaft (bis um 1350)を出版した。本書は、シトー会修道院の保護が成立する諸条件を、従来の法制史的アプローチではなく、新たに社会史的アプローチを導入することで解明したものである。修道院による教区教会所有を通して司牧に関しても分析を行い、シトー会は世俗社会の宗教生活にほとんど関与しなかった、というこれまでの理解を覆した。

(2) 国際共同研究によるシンポジウムの開催と英語論文集の刊行

本プロジェクトは計画当初より国際共同研究に主眼を置いており、2019年3月にドイツ・ドレスデン工科大学の比較修道会史研究所(FOVOG)のゲルト・メルヴィル所長、ミルコ・ブライトンシュタイン、イェルク・ゾンターク、そしてイギリス・リーズ大学のエミリア・ヤムロジアクを招聘して国際シンポジウム"Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650"(3月1日・2日、岡山大学)と国際シンポジウム"The Past and Present of the Research on Medieval Monasticism in Europe and Japan"(3月4日、慶應義塾大学)を開催した。前者では、上述した目的①~③を総勢12名の報告者によって検討し、また、今後の発展を期して日本中世の寺社を専門とする研究者も参画し、キリスト教修道制との比較を試みた。

その後、各修道会を修道制の系譜に再置し、それぞれの司牧と関わり方を総合的に明らかにすることを目指し、上記の岡山大学で実施したシンポジウムを元に、英語論文集(タイトル: Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650))を取りまとめる作業に従事した。研究代表者、研究分担者を含め、ドイツ、イギリス、日本から総勢13名の研究者が参画して論文を寄稿し、修道会研究において定評のある Vita regularis シリーズからの刊行が決まっている。その冒頭第1部では Gert Melville, The medieval discussion about monks and pastoral care. Observations on the positions of the Canon Law が修道制と司牧の関係を教会法において総覧し、修道士のあらゆる司牧活動の法的土台を提供する。続いて第2部では4本の論文が観想修道院による司牧実践を、第3部では5本の論文がそれぞれ托鉢修道会、騎士修道会、イエズス会など活動的な修道会による司牧実践を、そして第4部では、比較対象として日本中世寺社による司牧実践と、近世日本におけるキリスト教修道制の活動について論じた。修道制は、司牧をめぐる修道院の内外(例えば修道会内、修道院と世俗司祭の間、修道院と信徒共同体の間など)で頻繁に緊張関係に直面していた。本書は、そうした緊張関係の特徴と、これを克服する中で修道制が生み出した司牧にまつわる革新的要素について総合的に明らかにするものである。また、日本中世に関する英語論文は、今後の国際共同研究の推進に資するだろう。

2020年度に始まった新型コロナウイルスの感染拡大により作業が遅延し、本書を研究期間中に刊行することは叶わなかったが、2022年夏までには刊行できる見込みである。この英語論文集を本研究の最大の成果と位置付け、その意義を学会に広く問うことにしたい。

(3) 研究会の開催と研究ネットワークの形成

本プロジェクトにおける研究活動として定期的に研究会を開催した。そこでは研究内容に深く関わる研究者にも参加してもらい、オンライン・グループウェア Slack を活用して緩やかに情報交換を行う「修道会史研究ネットワーク」を立ち上げた。

2018年は修道会比较に主眼を置き、2回にわたり研究会を開催した。7月の第1回は鈴木喜晴「隠修士・使徒・司牧者 14世紀における修道身分変更のレトリック」の報告を検討し、12月の第2回は大貫俊夫「シトー会修道院による小教区教会所有の意味 12~13世紀エーブラ修道院の事例から」と赤江雄一「Pastoral Teaching and Preaching in Fourteenth-Century

England」の報告を検討した。

2019 年も引き続き本プロジェクトに関連するテーマで研究会を 2 回開催した。7 月には黒田祐我(神奈川県立大学)「イベリア半島の騎士修道会をめぐる歴史と議論」と佐治奈通子(東京大学)「オスマン朝下のカトリック教徒研究の現状 クレシェヴォ修道院所蔵のオスマン・トルコ語文書群研究のために」、10 月 1 日には林賢治(フライブルク大学)「12 世紀ヒルザウ系修道院の armarius」の報告を得て、共同研究に資する議論を深めることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 赤江雄一	4. 巻 89
2. 論文標題 環境史の鍵概念としての主観性と史料探索の今	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 137-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武田和久	4. 巻 11
2. 論文標題 ポリシア、レブリカ、レドゥクション - スペイン植民地宗教政策としてのインカ文明の資源化（16-17世紀） -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学高等研究所紀要	6. 最初と最後の頁 103-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大貫俊夫	4. 巻 19
2. 論文標題 河内祥輔、小口雅史、M・メルジオヴスキ、E・ヴィダー編『儀礼・象徴・意思決定 日欧の古代・中世書字文化』 西洋史の側から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際日本学	6. 最初と最後の頁 142-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 武田和久	4. 巻 17
2. 論文標題 キリスト教的地獄観の流用（アプロプリエーション）とアメリカ先住民 17-18世紀スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 87-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhisa Takeda, Guillermo Wilde	4. 巻 101:4
2. 論文標題 Tecnologias de la memoria: mapas y padrones en la configuracion del territorio guarani de las misiones	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hispanic American Historical Review	6. 最初と最後の頁 597-627
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Kazuhisa Takeda
2. 発表標題 Militant Confraternities in the Iberian World: Another Face of Religious Organization
3. 学会等名 Zoom meeting
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 罹患先住民女性の臨死体験と対称性 - スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を事例として
3. 学会等名 早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toshio Ohnuki
2. 発表標題 The Cistercians, Church Possession, and Pastoral Care in the High Middle Ages: A Case Study on Monasteries in Franconia and Saxony
3. 学会等名 International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeda Kazuhisa
2. 発表標題 Pastoral Care on the Battlefield: Jesuit Military Involvement in Early Modern Europe and South America
3. 学会等名 International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuichi Akae
2. 発表標題 Catechetical Teaching and Preaching by a Mendicant Friar: The Treatises on Pastoralia of John Waldeby OESA
3. 学会等名 International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhisa Takeda and Guillermo Wilde
2. 発表標題 Configuracion del territorio reduccional: cacicazgo, cartografia y memoria
3. 学会等名 Workshop: Espacio y poder en las misiones de la america espanola meridional. saberes, mediaciones y circulaciones (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshio Ohnuki
2. 発表標題 The Crisis of the Cistercian Order and Liturgy on the Eve of the Fourth Lateran Council
3. 学会等名 Research Seminar Series 2022, Institute for Medieval Studies, University of Leeds (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤江雄一
2. 発表標題 問題ある説教者としての教皇ヨハネス22 世 至福直観論争の別側面
3. 学会等名 三田史学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田和久
2. 発表標題 キリスト教的地獄観の流用(アプロプリエーション)とアメリカ先住民 17-18世紀スペイン領南米ラプラタ地域のイエズス会布教区を中心に
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第17回大会シンポジウム「前近代世界における宗教運動と文化交流の諸相」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuhisa Takeda
2. 発表標題 Las relaciones de parentesco y cacicazgo guarani en las misiones jesuitas de Paraguay: el producto hibrido de la colonizacion y evangelizacion espanola
3. 学会等名 Considerations for the Research of Local Knowledge Circulation: The Interaction between Europe and the Americas in the Early Modern Era (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 大貫俊夫他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 321
3. 書名 論点・西洋史学	

1. 著者名 大貫俊夫他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 708
3. 書名 ドイツ文化事典	

1. 著者名 Kazuhisa Takeda, Fernanda Alfieri, Takashi Jinno	4. 発行年 2021年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 200
3. 書名 Christianity and Violence in the Middle Ages and Early Modern Period: Perspectives from Europe and Japan	

1. 著者名 Kazuhisa Takeda, Stefano U. Baldassarri	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Tab Edizioni	5. 総ページ数 223
3. 書名 Guerre di religione e propaganda 1350-1650	

1. 著者名 金澤 周作、藤井 崇、青谷 秀紀、古谷 大輔、坂本 優一郎、小野沢 透、大貫 俊夫、赤江 雄一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 論点・西洋史学	

1. 著者名 大貫俊夫他編訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 柏書房	5. 総ページ数 408
3. 書名 中世共同体論ーヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人	

1. 著者名 Toshio Ohnuki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kliomedia	5. 総ページ数 288
3. 書名 Orval und Himmerod. Die Zisterzienser in der mittelalterlichen Gesellschaft (bis um 1350)	

1. 著者名 西山雄二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 いま言葉で息をするために ウイルス時代の人文知	

1. 著者名 ウィンストン・ブラック、大貫俊夫、内川勇太、成川岳大、仲田公輔、梶原洋一、白川太郎、三浦麻美、前田星、加賀沙亜羅	4. 発行年 2021年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 384
3. 書名 中世ヨーロッパ ファクトとフィクション	

1. 著者名 赤江雄一、岩波敦子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 246
3. 書名 中世ヨーロッパの「伝統」	

1. 著者名 Laura Dierksmeier, Fabian Fechner and Kazuhisa Takeda	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Tuebingen University Press	5. 総ページ数 310
3. 書名 Indigenous Knowledge as a Resource: Transmission, Reception, and Interaction of Knowledge between the Americas and Europe, 1492-1800	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>大貫 俊夫 (Toshio OHNUKI) - マイポータル - researchmap https://researchmap.jp/ohnuki/ 赤江 雄一 (Yuichi Akae) - マイポータル - researchmap https://researchmap.jp/yuichi.akae/ 武田 和久 (Kazuhisa Takeda) - マイポータル - researchmap https://researchmap.jp/read0203916</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	赤江 雄一 (Akae Yuichi) (50548253)	慶應義塾大学・文学部(三田)・教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	武田 和久 (Takeda Kazuhisa) (30631626)	明治大学・政治経済学部・専任准教授 (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Symposium "The Past and Present of the Research on Medieval Monasticism in Europe and Japan"	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ドレスデン工科大学比較修道会 史研究所			
英国	リーズ大学			